

令和6年度 進学・就職希望者に対する激励

只今、3年生の皆さんからそれぞれ伝えられる範囲で決意表明が行われました。

本日に至るまで、自己の在り方・生き方を考えながら、様々な選択肢の中から卒業後の進路を選択し、その理由についても志望理由書等の作成をとおして可視化するに至っているものと察しています。

また、1・2年生の中には、「進路のこと」や「学習のこと」について「悩み」を抱えている人もいるかも知れません。それは、社会情勢に対してはもちろんのこと、自分自身に対する理解を深めていくことにより生じる場合も考えられ、今後、こうした悩みと向き合うことで自分を成長させていくことに繋がるのではないかと捉えています。

さて、皆さんは、「働くとはどのようなことだろうか」、「何のために働くのだろうか」などと考えたことはないでしょうか。

「働く」の語源は、止まっていたものが急に動くことを表し、そこから体を動かす意味となったとされ、さらに転じて労働の意味になったと捉えられています。また、一説では、「傍（はた）を楽にする（楽しませる）」ことだとも言われています。「傍（はた）」というのはかたわら、周り、第三者のことで、「楽」というのは心身に苦痛などがなく快く安らかなこと、あるいは生計が豊かなことで、直訳すると、周りにいる人や第三者を快く安らかにすること、周りにいる人や第三者の生計を豊かにすることということになります。

しかしながら、「働く」とは、誰かを楽にするために自分を犠牲にして動くということとは異なり、自分自身が学び鍛えてきた能力や得意なことを活かして主体的に関わることによって、誰かを楽にし、誰かを楽しませることに繋がるものであると考えられます。一方で、誰かの働きによって、自分自身が楽になり、楽しみが得られるものということも言えるのではないのでしょうか。こうして、社会は調和し、成り立っていると捉えることができると考えます。

最後に、決意を述べた3年生の希望進路の実現と社会における活躍を祈念するとともに、1・2年生にとっても3年生の今後の動きを実際に見ながら、今後の自分自身の在るべき姿を想像し、その実現に向けた具体的な行動を起こすことを期待し、本日の激励といたします。